

九地整「CNP認証（コンテナターミナル）認証書交付式」開く
博多港アイランドシティコンテナターミナルが最高評価レベル5を取得



CNP 認証交付式



あいさつする酒井副局長

九州地方整備局は16日、福岡市博多区においてCNP認証（コンテナターミナル）認証書の交付式を執り行った。本認証制度とは、コンテナターミナルにおける脱炭素化の取り組みを客観的に評価する認証制度。脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素・アンモニア等の受け入れ環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート（CNP）の形成を推進。コンテナターミナルにおける脱炭素化に向けた取り組みの実施状況を2023年6月より運用が開始された。評価は取り組み状況に応じてレベル

1～5までの5段階で行われ、今回の認証が制度創設後初となる。

博多港アイランドシティコンテナターミナルが、CNP認証レベル5を取得した評価ポイントとして、港湾脱炭素化推進計画の作成、インバータ制御方式のガントリークレーンの導入100%、低・脱炭素型トランスファークレーン・ストラドルキャリアの導入100%、LED照明の導入100%、環境に配慮した船舶への入港インセンティブの導入、ゲート前の渋滞、ヤード内の滞留対策の実施が挙げられる。加えて、LNGバンカリング



駒田氏（博多港ふ頭）へ認証書の交付



鈴木氏（福岡市）へ認証書の交付

への対応も評価され、これらの先進的な環境対策が最高位となるレベル5認証につながった。

認証式の冒頭で九州地方整備局の酒井浩二副局長は「船会社は船舶側の努力だけでなく、ターミナル側の環境対策にも関心が高くなっている。この認証を受けたことから、これからのポートセールスにおいても強みになる」とあいさつ。

認証書は同ターミナルの運営者である博多港ふ頭（株）と管理者である福岡市の2者に交付された。博多港ふ頭（株）の駒田浩良代表取締役社長は「先達の努力が実を結び結果につながりました。具体的な取り組みとしては、荷役機械RTGの電動化によるCO₂排出量70%削減と、2000年に導入した物流ITシステム「HiTS」の導入により、物流効率の改善とアイドリングによるCO₂排出削減を実現しました。評価いただいた項目に限らず「選ばれる港」としての地位を確立し、九州経済への貢献を果たすとともに、日本のカーボンニュートラルポートを先導する存在となることを目指したい」と語った。福岡市の鈴木順也港湾空港局長は「博多港のセールスポイントがCNP認証取得によって、また一つ増えました。認証有効期間は3年ですので、この認証を最大限に活用するとともに引き続きCNPへの取り組みを推進し、次回の更新でも高い評価を得られるよう努力したい」と締めくくった。